

カジノをやめ市民生活を第一に

大阪市議会決算特別委 長岡ゆりこ議員が質問

大阪市の2020年度公営・準公営企業会計決算を審議する市議会決算特別委員会が6日開かれ、日本共産党の長岡ゆりこ議員が港管会計の大阪埋め立て事業と、PFI(民間資金を活用した公共施設整備)による水道の管路更新事業について質問しました。

埋め立て事業には、2025年の大阪・関西万博の開催予定地で、府と大阪市がカジノを核とした統合型リゾート(IR)の誘致を狙う夢洲(ゆめしま)などがあります。同事業を含む港管会計の企業債残高はここ数年減少していましたが、20年度末で約16億8千万円増え、約1210億円となっています。



質問する長岡議員＝6日、大阪市議会決算特別委員会

さらに埋め立て事業の長期収支で見込んでいる、IR事業者からの基盤整備負担金などの収入について質問すると、大阪港湾局は「収入が見込まれる」時期は不確定」と答えました。

長岡氏は「見込みが立たないということだ」と断じ、「カジノ・IRの誘致のために、ギャンブル的に事業投資をし続けることはやめ、引き際を見極めよ」と力説。「行政の役割を見つめ直し、市民生活を第一に考えた港管事業・埋め立て事業に転換を」と述べました。

長岡氏は「見込みが立たないということだ」と断じ、「カジノ・IRの誘致のために、ギャンブル的に事業投資をし続けることはやめ、引き際を見極めよ」と力説。「行政の役割を見つめ直し、市民生活を第一に考えた港管事業・埋め立て事業に転換を」と述べました。

管路の更新は行政の責任で

長岡氏は、水道局が管

「大企業に利権を渡すのではなく、地元の中小企業を応援し、管路耐震化のスピードアップには水道局の体制強化で対応すべき」と述べました。

長岡氏は、万博会場へのアクセス鉄道の基盤整備が当初の250億円から40億円増え、大阪メトロ中央線を延伸して夢洲に通じたと答弁しました。

長岡氏は、万博会場へのアクセス鉄道の基盤整備が当初の250億円から40億円増え、大阪メトロ中央線を延伸して夢洲に通じたと答弁しました。

長岡氏は、万博会場へのアクセス鉄道の基盤整備が当初の250億円から40億円増え、大阪メトロ中央線を延伸して夢洲に通じたと答弁しました。